

誰もがいつまでも楽しめるニュースポーツ。このコーナーでは、さまざまなニュースポーツの魅力を紹介します。

## 今月のスポーツ ティーボール

ティーボールは、野球やソフトボールと似たスポーツで、ルールの大きな違いは、投手がないことです。打者が、バッティングティー上の止まったボールを打ち、ベースを回って点をとります。

ボールとバットが柔らかく、野球やソフトボールよりも安全に楽しむことができます。



スポーツ推進委員

ばば よしき  
馬場 良樹 さん

止まったボールを打つため簡単で、誰でも打つ喜びを味わえます。



### 競技のここが楽しい!

打者はボールを打ちやすく、守備側もボールが頻繁に飛んでくるのでプレーする機会が多く、子どもからお年寄りまで楽しめます。



ボールを打つことができ、楽しかったです。

AGF鈴鹿体育館では、ティーボールの道具の貸出しを行っています。詳しくは、スポーツ課へ

問合せ スポーツ課 ☎ 382-9029 📠 382-9071

## ひとまち・モータースポーツ

### 初の世界選手権で輝いた“ニッポン”

1963(昭和38)年、前年に開場したばかりの鈴鹿サーキットで、春に4輪、秋に2輪の「日本グランプリ」が初めて開催されました。

「国名+グランプリ」は、その国の最高峰に位置付けられるレースで、4輪の日本グランプリが独自の国際レースとして行われたのに対し、2輪の日本グランプリは、各国を転戦して争われる世界選手権シリーズの最終戦として行われました。つまり日本初の世界選手権レースでもあったのです。

11月10日に行われた決勝は、250ccクラスチャンピオン決定の舞台となりました。レースはホンダとヤマハが激突する構図となり、上位3台の順位が毎周のように入れ替わるなどの激戦で、大観衆をわかれました。

24週の戦いを制し、世界王者に輝いたのはイギリスのジム・レッドマン選手(ホンダ)でしたが、特筆すべきは伊藤史朗選手(ヤマハ)が見事2位に入ったことです。

誕生したばかりの国際サーキットで、日本製マシンと選手が輝きを放ったことは、日本のモータースポーツの発展を予感させるような出来事でした。



▲グランドスタンド前を疾走する上位3台

なかのよしげ

■中野能成(鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

### キーボード

先日、ラグビーワールドカップのパブリックビューイング取材しました。会場となったイオンモール鈴鹿には、三重ホンダヒートの選手を含む多くの観客が集結し、日本代表が得点するたびに、会場は大いに盛り上がりました。惜しくも日本代表は敗れましたが、声を掛け合いながら最後まで戦う選手の姿に、心を動かされました。

さて、今回の特集で取り上げた「非認知能力」は、日常生活や社会活動において重要な能力とされますが、ラグビー日本代表選手をはじめ、トップレベルで活躍する皆さんは、高度な非認知能力を多く持ち合わせているように感じます。

この能力は、大人になっても伸ばすことができるそうです。私も、自分の強みや課題を改めて認識し、自身のさまざまな非認知能力を伸ばしていきたいと思います。(晴)